

妊娠・授乳中の新型コロナウイルスワクチン接種について

2021年8月20日

聖母病院産婦人科

我が国で接種が開始された新型コロナウイルスワクチンは「mRNA ワクチン」という新しいタイプのワクチンです。このワクチンはウイルス自体を含まないため、接種によりウイルスが体内にはいるわけではありません。

これまでのデータから、妊娠中、特に妊娠末期に新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいことが報告されております。妊娠の有無に関係なく、ワクチン接種による長期的影響は不明ではありますが、ワクチン接種による副反応（注射部位の痛み、倦怠感など）の頻度は非妊娠時と同等であり、ワクチン接種が早産や児の発育異常などのリスクを高めないという調査結果も発表されております。以上より、現時点では妊娠・授乳を理由に接種を控える必要はないと考えます。

妊娠中の感染の約80%は同居家族（主に夫・パートナー）からの家庭内感染です。このことを受け、日本産科婦人科学会は8月14日付で妊婦さんおよび夫・パートナーの接種を推奨しております。なお、妊娠の時期・授乳の有無に関係なくワクチン接種をおうけいただけます。

* ワクチン接種に関する手続きなどは、各自治体の指示にしたがってください。

* 当院におけるワクチン接種に関する情報はこちら（病院HP：https://www.seibokai.or.jp/resources/file/pdf/information_Regarding_covid-19_vaccination.pdf）をごらんください。

* ワクチン接種後も感染リスクがあります。引き続き、感染予防をお願いします。

参考情報

- (1) 日本産科婦人科学会：妊産婦のみなさまへ
http://www.jsog.or.jp/news/pdf/20210814_COVID19_02.pdf
- (2) 厚生労働省 新型コロナウイルスワクチン Q&A :
<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0027.html>